

第3回九州大学基幹教育シンポジウム 開催報告

2016年11月23日(水)に、第3回九州大学基幹教育シンポジウムが九州大学百年講堂(病院キャンパス)で開催され、249名の方にご参加いただき、盛会のうちに終えることができました。お忙しい中、ご参加・ご協力いただき、誠にありがとうございました。以下に参加者にご回答いただいたアンケート結果を示します。

【開催概要】

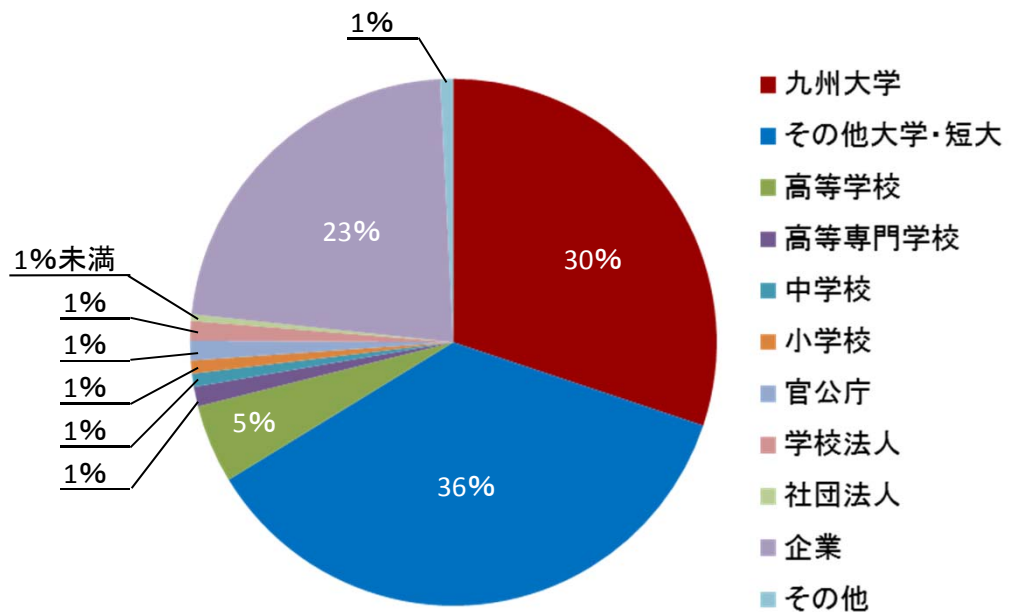
日時:2016年11月23日(水)

会場:九州大学医学部百年講堂

参加者:249名

《参加者内訳》

九州大学	75
その他の大学・短大	90
高等学校	12
高等専門学校	3
中学校	2
小学校	2
官公庁	3
学校法人	3
社団法人	1
企業	56
その他	2
合計	249



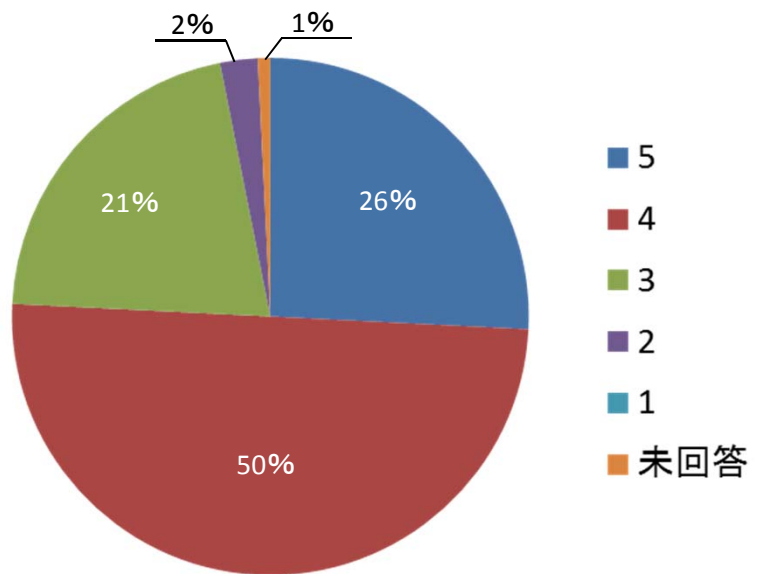
【アンケート集計】

(1) 以下の報告や講演等は、あなたにとってどの程度参考になりましたか。
以下の尺度でお答え下さい。

- 5-大変参考になった
4-ある程度参考になった
3-どちらともいえない
2-あまり参考にならなかった
1-全く参考にならなかった

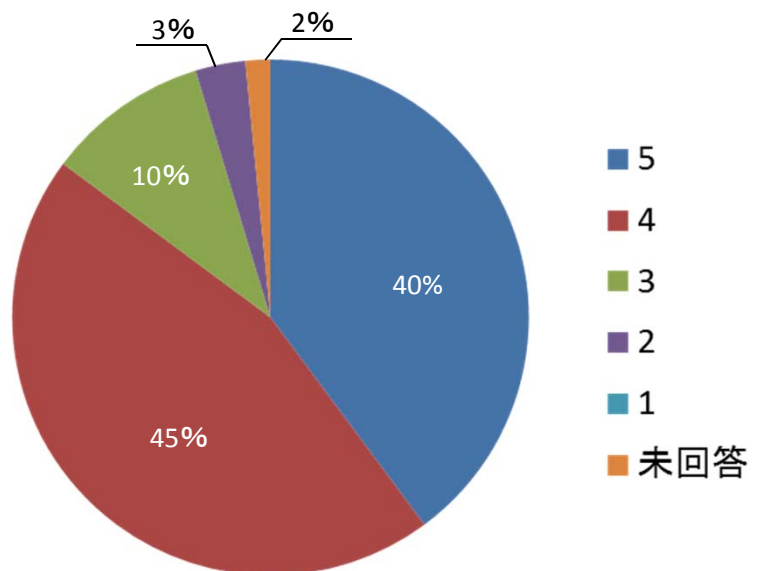
①「AI/ビッグデータ研究と教育改革への期待」

5	33
4	64
3	27
2	3
1	0
未回答	1
合計	128



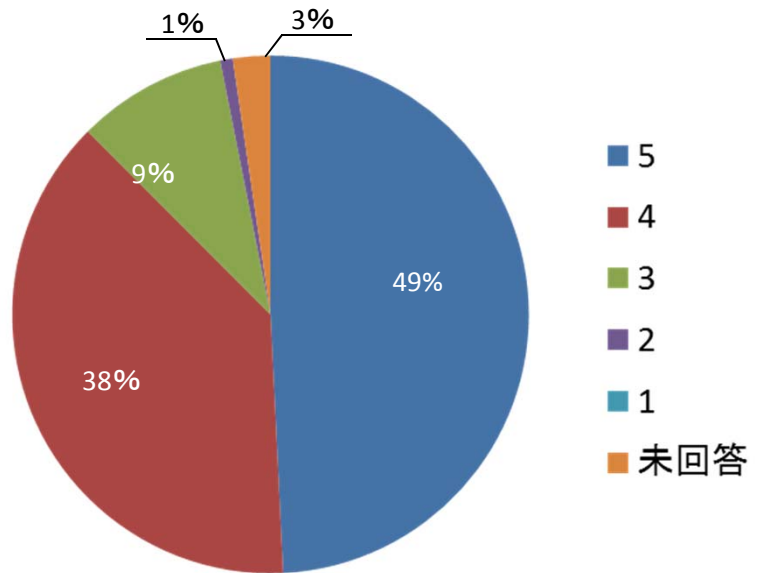
②「デジタル教科書に関する政策動向とLAに対する期待」

5	51
4	58
3	13
2	4
1	0
未回答	2
合計	128



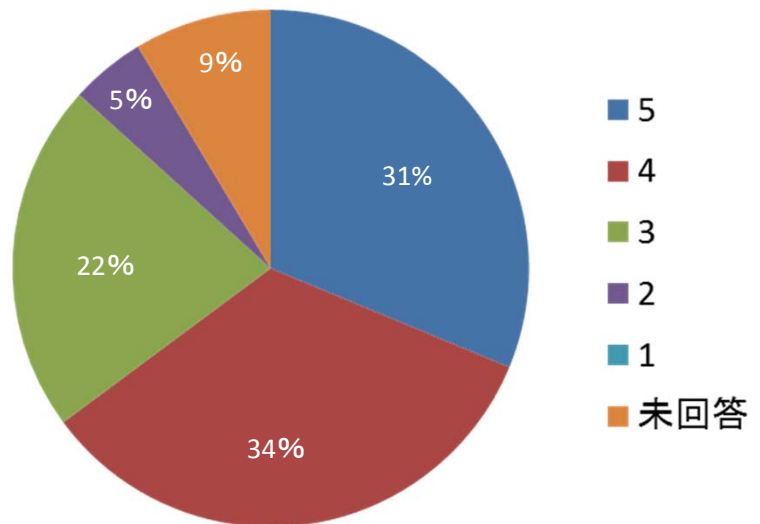
③「九州大学におけるLAの取り組み」

5	63
4	49
3	12
2	1
1	0
未回答	3
合計	128



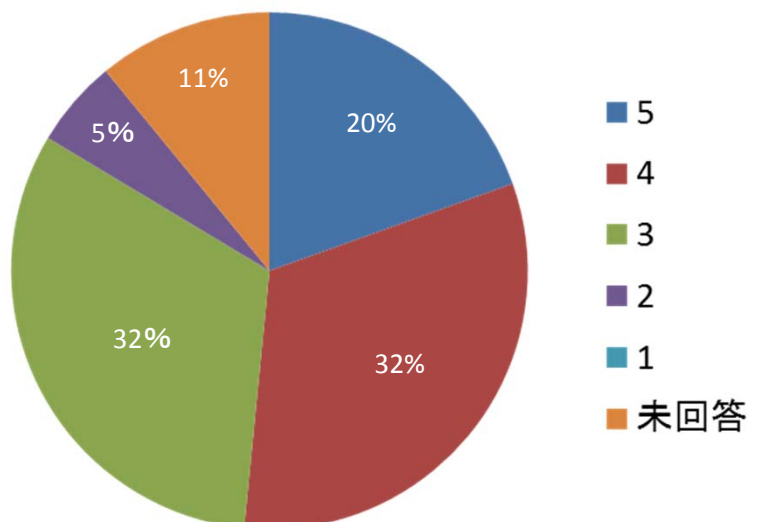
④「LAによる教育学習活動支援のための情報環境と研究開発」

5	40
4	43
3	28
2	6
1	0
未回答	11
合計	128



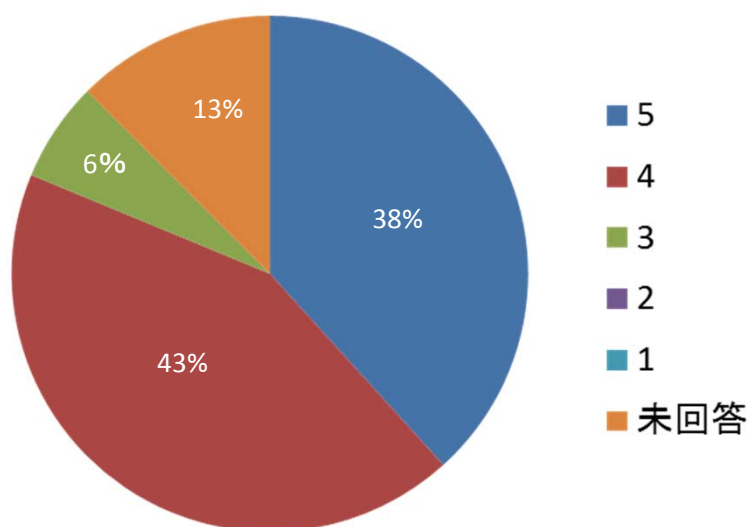
⑤「センサーデータの利用とLAへの期待」

5	25
4	41
3	41
2	7
1	0
未回答	14
合計	128



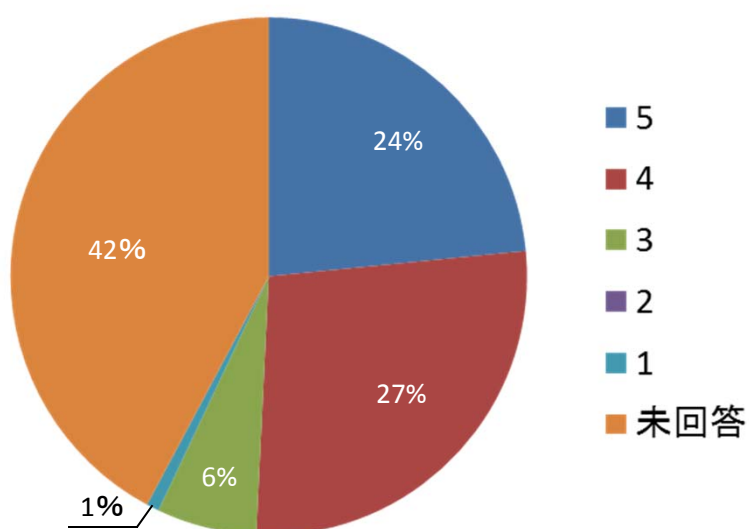
⑥「学習活動のリアルタイム分析」

5	49
4	55
3	8
2	0
1	0
未回答	16
合計	128



⑦「パネル討論」

5	30
4	35
3	8
2	0
1	1
未回答	54
合計	128



(2)今日のシンポジウムに参加して、もっと知りたい・学びたいと思ったことやトピックをお書きください。

- ◇初等教育におけるセンサデータの活用と、そのための環境デザインについて。
- ◇高等教育から、初等・中等へどのように落とし込んでいくのか見てみたい。
- ◇大学に入学する以前のLearningポートフォリオをうまく取り込みための手法や、具体的な実践例があったら知りたい。
- ◇学習者のマインドを上げるのか、グリットを上げるのか、アクションを上げるのか、知識を上げるのか、そもそもその仮説が欲しい。
- ◇描いているゴールが何で、それに向けての技術的課題・可能性について。
- ◇効率よく学習を行う学生さんの学習効果を分析することで、どれだけ成績に関係付けできるか。
- ◇LAと学習環境(スペース)による意欲の向上についてどう関係するか知りたい。
- ◇学生がアクティブラーニングを支援しているケースの話があったら聞きたい。
- ◇LAで学生からの意見はどうか、どう思っているのか。学生の満足が高まっているというかどうか。
- ◇LAによる教育導入前と後での、学生の成績や進学・就職率の比較などが知りたい。
- ◇高い学習効果を上げている学生の学び方についての傾向、低い学習状況の学生がどのように改善して、学びを自分のものにしていったかについての分析。
- ◇九大の実践で生徒のアンケート等により、何か有意義な特色は見出せているか？
- ◇LMS、ポートフォリオからの教員や学生へのフィードバックと、その効果など。
- ◇個人レベルで取り入れられるLAがあれば具体的な方策を知りたい。
- ◇LAは教育のコンテンツがあつてのものだと思うが、そのコンテンツ・教育手法についての提言をもっと知りたい。
- ◇実務的なLAの手法について知りたい。
- ◇LAの全学講義に占める適用率。実習・実験形式の授業にも展開しているのか？
- ◇担当している授業、および学部全体でのe Book、eポートフォリオの具体的な運用法について。
- ◇LAの適用側の利用方法について、分析結果レポートをどう活用しているかなど。
- ◇データ収集に関して、組織という枠組みを超えた協力方法について。
- ◇LAセンターの情報・心理・認知・脳科学等の専門の先生方は、具体的にどのような内容を担い、それがどのように有機的に結び付いているのか？
- ◇アクティブラーナーでない(変わりたくない)教員へのアプローチの方法を知りたい。
- ◇アクティブティーチングという考え方。教える側がラーニングアナリティクス時代にもっと変わらなければならないと認識したが、データに基づいた授業やティーチングをした先生の評価があれば見てみたい。
- ◇多様な形態の授業実践におけるLAの活用・成果を学びたい。
- ◇LAの稼働化、具体的な実施方法、日本全体での分析と対策。
- ◇生徒(学習者)のパターン化について、さらに実用化レベルが高まる理論・しくみ。
- ◇LAの結果から、どのような教育を行うとアクティブさの向上になるのか、そのような研究への取り組みがあれば紹介して頂きたい。
- ◇質の良いデータ(行為の背景にある意図)をどうやって今後とっていくのかもっと知りたい。
- ◇LAのどのような分析結果が、具体的にアクティブラーナーのどのような特性育成に役立つのか？
- ◇LAに関する現場での実例と上がっている効果。明らかになってきた課題。
- ◇センサ活用の事例。
- ◇発達障害等の学生の指導について、LAの分野ではどのように取り扱われているか。
- ◇失則事例などの共有もして欲しい。
- ◇LAとIRの関係について。
- ◇外国におけるデジタル教科書の実状。
- ◇PC活用するカリキュラムを、どうやって組み立てたのか、もっと知りたい。

(3)九州大学基幹教育について、ご意見やアドバイスをお書きください。

- ◆積極的な取り組みに期待しています。
- ◆大変興味深い内容のシンポジウムでした。ありがとうございました。
- ◆非常に貴重なセミナーでした。ありがとうございました。
- ◆センター化・分析・活用が進んでいる。多様な学力層の学生が活用できるシステム作りを期待します。
- ◆新しいモデルに積極的にチャレンジされており、今後の活動に期待します。
- ◆新設される学部も含めて、独創的な教育プログラムに期待しています。
- ◆非常に熱心な取り組みに感心しました。大変参考になりました。
- ◆大学教育を変えるインパクトを持つことを期待しています。
- ◆丸野先生のお話にはいつも共感させられます。九大基幹教育が、九州発の教育改革へと発展していくことを願っています。
- ◆すばらしい！
- ◆今後も高等学校との連携・ご支援をお願い致します。
- ◆M2Bに感動しました。領域をリードする取組として、このまま続けて頂ければと存じます。
- ◆豪華な講師陣による、深い学びの時間をありがとうございました！
- ◆本日の講演を聞いて、初めて「基幹」の意味がわかりました。Leathner Centric の中核を担う教育として期待しております。
- ◆非常に先進的な取り組みをされていることに驚きました。リアルタイムなフィードバックは、今後の教育に非常に有用だと感じました。
- ◆年一度、組織のアウトプットの報告会をこのような形でやってください。
- ◆大変先駆的な取り組みをされている印象です。今後も、取組・成果を公開・共有して頂けると大変ありがたいです。
- ◆意欲的な取り組みを行っていると思いますので、成果をオープンにすることを積極的に進めて頂きたい。
また、可能であればデータもオープンにして、LAコミュニティの中核となって欲しい。
- ◆本日のように、シンポジウムや実際の授業など見学ができればよいです。
- ◆配布資料が欲しかったので、今回のプレゼン資料を公開してほしい
- ◆まだLAが有効に目標達成のために十分に活用されていないと感じた。
- ◆学生からの声としては、賛否両論であり、必ずしも成功しているとは言い難い。
- ◆システムの変革に合わせたコンテンツの開発・変更がどのように進められるのか、具体的に考えなければならない。
- ◆取り組みの成果の評価は、専門課程の側から見ないとできないのでは？
- ◆定性・定量変化からのアプローチも大事だと思いますが、まず、授業が学生にとって「面白い」か「面白くない」かにも目を向けてほしい。
- ◆学生は授業だけでなく自己学習が重要。クラウドでは情報基盤、学習では図書館との連携に期待する。
- ◆基幹教育の理念はすばらしいが、全ての教員が同じマインドで教育を行ってほしい。教員がアクティブラーナーに!!
- ◆安浦先生が言われたように、10年後の発展を見据えて学生には最新の情報環境を提供して欲しい。
どう使うのかを教える側から押し付けるのではなく、学生が自由にトライアル&エラーできると良い。
- ◆教育データの蓄積とフィードバックのシステムが素晴らしいと思いました。データが Teaching がメインのように感じ、アクティブラーナーの育成にはという部分が知りたかった。
- ◆学生にとっての学びの質と、教員にとっての学びの質の違いはどう埋めるのか。大学が求める学びの質やDPをいかにして学生に理解してもらうかについても考えてほしい。(価値観の違いをどのようにわからせるか)
- ◆せっかくLAの環境が整っているので、全ての授業でデータを収集できる体制になれば、先駆的事例としてすばらしいと思います。
- ◆LAについては、九大ではまだ発展途上かと思いますので、定期的に学内でFDを開催するなど理解を深めて協力体制をつくりやすくしていくと良いと思います。
- ◆日本の学校だけでなく、アメリカ、フィリピン、韓国など他の国での実験も行うと、結果からより一般化できるようになるのではないかと思います。

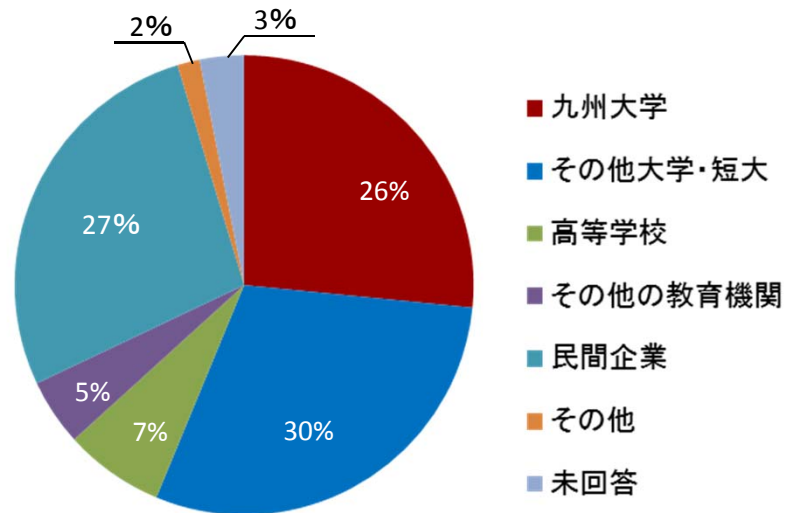
【アンケート回答者内訳】

■所属

1 九州大学	34
2 その他の大学・短大	38
3 高等学校	9
4 その他教育機関	6
5 民間企業	35
6 その他	2
未回答	4
合計	128

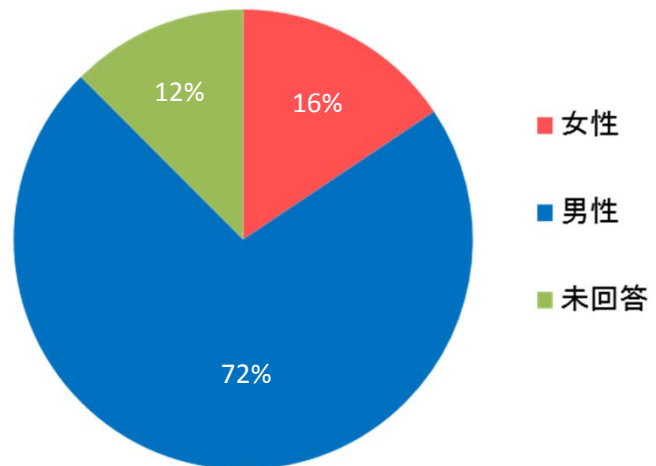
<その他の教育機関>

- ・中学校
- ・高等専門学校



■性別

1 女性	20
2 男性	92
未回答	16
合計	128



■年代

1 20歳未満	0
2 20代	11
3 30代	28
4 40代	35
5 50代	42
6 60歳以上	7
未回答	5
合計	128

